

グループホーム だんらん

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		「私たちは、人としての尊厳を損なうことなく地域との交流の中で、その人らしく過ごせるように援助します」を理念に掲げ実践に向けて取り組んでいる。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		「地域に向けて」を合言葉に、施設の行事や催し物に案内を出したり、地域で行われる季節の行事に声をかけてもらい交流を図っている
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		ホーム便りや地域運営推進会議、ホーム見学者、職場体験(学生)時など色々な機会を活用して、事業所の目的や実践を伝えている。
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		災害時の連絡網に、自治会長さんに参加してもらったり、地域の方たちにホーム見学してもらったりホームの開放化に努めている。近隣の小学生が通学途中にトイレをかりに立ち寄り利用者の方たちと挨拶を交わしている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		当ホーム主催の催し物には地域の方にもご案内を出し、地域の中で自然に交流が出来るように連携を強めていきたい。

グループホーム だんらん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成の一環として、看護関係の実習生の受け入れをしている。ホームで行なう消防訓練には地域の方にもご案内を出し、初期消火訓練方法や住宅用火災警報器の説明(概要)を配っている。		今行っていることを定着させ、又地域要望はどんなことがあるのかを知り実現可能なことから取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。又、外部評価の結果は会議で報告し、改善に向けて努力している。		配置転換や入職してきた職員にも折に触れて伝え、全職員が意義を理解し自分たちに足りない所や努力する点を見出し、より質の高いケアが提供されるよう活用していきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	認知症についての理解や、GH役割など会議に必要な資料を作成し、参加者に理解を求めると共に運営推進会議事録により職員に情報の共有を図っている。また提供するサービスや利用者の状況について報告を行い、会議の中で出た意見などはケアサービスにつなげている。		運営推進会議では事故報告やヒヤリハット、行事報告、外部評価等を報告し理解を深めていただくと共に家族や地域の方々から意見や要望を吸上げながら、互いにサービスの質の向上に向け努力している。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	充分とはいえないが、必要時担当者と連絡を取ったり助言を頂いている。		担当のケースワーカーとの話し合いや外出に必要な福祉用具(車椅子)の相談など。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度や地域権利擁護についてパンフレットや資料による学習を行い、必要に応じて活用できるように支援している。成年後見制度のパンフレットを家族への通信物に同封し情報提供を行っている。		今後も学習会を重ね、制度に関する理解を深めて必要な方にはそれらを活用できるよう努めたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会「接遇を振り返る」を実施し、高齢者への虐待防止に関する理解を深めている。		職員による虐待を防ぐためにスタッフへのメンタル面への気配り、ケアについても率直に言い合える職場風土になるよう気を配って行きたい。

グループホーム だんらん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	十分な説明と同意を行っている。		必要随時、不安や心配事に対応していきたい。
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	日頃から自由に発言したり、不満を口に出来る雰囲気大切にしたい。又面会時には、ゆっくりとつづるながら私事の話が出来るように、職員は立ち入らないようにしている。		嗜好調査調査をしたり、出かけた場所を聞いたりして可能な限りにおいて、実現できるよう努力している。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月発行のだんらん便りを利用したり、家族の面会時に報告をしている。		だんらん便りで居室担当が各自の近況報告をしたり、医者の意見書や服用中の処方箋、検査データを同封している。子遣いなどの金銭管理は面会時家族に説明し確認印をもらっている。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	玄関ホールに意見箱を設けている。ケアプランの説明時に要望等を聞くようにしている。		面会時に雑談の中から意見、要望を伺う。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	会議やカンファレンスのなどで、意見や要望を出せるシステムがある。定期的な月例会議やケースカンファレンス等を行ったり、日々の情報交換等を行って、スタッフの意見や考えを運営に反映させている。		管理者は職員が自由に意見が言える雰囲気作りを心がけ、日々情報交換を行えるよう努力して行きたい。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	利用者のペースに合わせ、生活のリズムに合わせた援助が出来るように食事時間の調整をしている。ご家族の面会時間に制限をかけず、ご家族の都合の良い時間に来ていただいている。		朝食の時間は決めてはいるが、無理に起こさず体調を優先している。
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	併設の事業所へ異動は最小限にしている。異動、離職が止むを得ない場合もその時期や引継ぎ面で最善の努力をしている。		

グループホーム だんらん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の採用にあたっては、その適正を見極めスタッフが生き生きとやりがいをもって働けるよう職場環境の整備に努めている。足りない所は本人の気づきを支え、共に学びあう姿勢を大切にしている。</p>		<p>今後も本人の能力に応じ、その人らしく働いて行けるようサポートして行きたい。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>日々もケア全般を通じ、人生の先輩としてけ敬うということ大切にしていきたい。どのような状態になっても、ひとりの人間として大切にされなければならないことを実践レベルで伝えていく。</p>		<p>今後も日々のケアの振り返りの中から、人権について学ぶ機会を持って伝えて行きたい。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>日々のケアの中で学んで行けるように助言や教育を行っている。法人外の研修にも参加させ伝えていく。</p>		<p>採用時に個々の教育背景を把握し、段階的に教育して行きたい。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣の同業者との交流には参加している。</p>		<p>前回は顔合わせの段階でストップしているので、今後も回数を重ね勉強会をはじめ、情報交換やネットワークを作りサービスの向上を目指して行きたい。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>暑気払いや忘年会を通じ親睦の場を作り気分転換を図っている。勤務中でも気分転換が出来るよ休憩室を確保したり、ティータイムをしてリフレッシュしている。日常の中で職員のストレスや悩みを把握するよう努めている。</p>		<p>これからも日常の中で職員のストレスや悩みを把握するよう努めて行きたい。</p>

グループホーム だんらん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々のケア中から些細な変化も見逃さず、本人が努力したこと、やろうとしたことを支え生き生きとケアが出来るように助言したり共に学んだりしている。		職員の資格取得に向けた支援を行っており、取得後はその能力が生かせるように職場環境を整えている。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前の面接で情報収集したり、ホームの見学や体験入所などの利用も提案し、本人が求めていることや不安を理解できるように努めている。		本人や家族が気軽に利用でき納得していただくよう柔軟な対応をしていきたい。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	関係者の方や一番身近で情報を持っている家族から充分話を聴き、本人の思いも受け止めた上で、事業者としての役割を理解してもらい「そのとき必要な支援は何か？」をアセスメントする努力をしている。		グループホームや認知症の理解が低かったりするので、相談の段階で時間を費やすことがある。今後も認知症やグループホームの役割等について理解を深めていただくと共に、家族の思いなどくみ上げ安心していただけるようにしていきたい。
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何で一番困っているのか面接を含めた中で見極め、色々なサービスの中から適切なものを提供している。		今後も充分な話を聴きどのような支援が適切なのか探りながら支援して行きたい。
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族、関係者が事業所を見学してもらうことからはじめたい件入所を経て、事業所での生活が安定するのを見極めてから安定的な利用に努めている。グループホームの役割を家族に充分理解してもらいながら、本人が落ち着いて暮らせるように部屋の環境整備に協力してもらっている。(本人が馴染んだ持ち物や小物等の持ち込み)		事情により、急な入所になるケースがある。安心していただく為、家族や知人に面会に来ていただき、本人の負担を軽減できるよう努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「利用者は人生の先輩である」という考えを職員が共有しており、季節ごとの行事や慣わしなど教えてもらう場面が多い。また、そういった場面が持てるよう、ティータイムやレク(回想)の時間を利用して 行っている。		お正月の飾り、戦時中の体験談、花の植え方、懐かしの唄など生き生きとした表情をされ教えてください。

グループホーム だんらん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や便りなどで利用者さんの様子や職員の思いを伝えることで家族と職員の想いが徐々に重なり本人を支えていくための協力関係が築けるようになってきている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族や本人の思い、状況などを把握しながら、正月、盆外泊などを利用し家族と共に過ごす時間を大切にしている。		正月や盆外泊の他に兄弟の見舞いを利用し外出したり、衣類の入れ替えを利用し外出したり家族や知人と共に過ごす時間を大切にしている。また、本人の近況を家族通信を利用し報告している。面会時にはお茶を飲みながら本人とゆっくり過ごせるよう配慮している。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの方たちに(知人等)に遊びに来ていただいたり継続的な交流が出来るよう働きかけている。		今後も本人が支えてくれたり、逆に本人が支えてきた取り巻く人間関係や、場所等を把握していきたい。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共通の趣味を持った利用者さん同士で生け花を楽しんだり、トイレの場所や掃除用具の場所を教えあったり助け合ったり雑巾を干したりという場面を大切にし、さり気なく支援している。		ひとり一人の特性や能力に応じて、今後も関係の幅を大切にしていきたい。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	やむを得ず医療施設に移った利用者さんには面会に訪れたりホームで咲いた花をもって行ったりしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の何気ない言葉や表情などから思いをくみ取る。意思表示の困難な方は本人の立場や気持ちになり、自分だったらどうかを検討している。		朝起きが困難な方には食事の時間をずらしたら、本人がどのような暮らしを望んでいるのかを家族を加えて確認や検討している。

グループホーム だんらん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や、ご家族、関係者などから聞き取りを行っている。利用後も安心した暮らしの継続のため情報の把握を行っている。		本人自身の言葉のほか、家族、兄弟、知人など関わりのあった方の訪問時など情報の把握に努めている。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	起床時間や就床時間、食事のペースなど、利用者ひとり一人の生活のリズムを理解すると共に、ご本人や家族などからどのような暮らしをしてきたのかを聞いている。		出来ないことより、出来る事に注目し、その人全体の把握に努めさり気なく支援するようにしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく過ごせるよう本人やご家族から要望を聴き、また関係するスタッフ全員が意見交換をし課題となることを、長期短期目標をたて評価している。主治医にも往診時などを利用して相談にのってもらっている。		面会時を利用し、ご本人やご家族の思いや意見を反映させるよう努めている。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が情報を確認し、ご本人の要望を取り入れつつ、期間が終了するまで状態が変化した際は終了するまでにあっても検討、見直しを行っている。		毎日の申し送りなどでも介護計画の遂行状況、効果など評価している。また、面会時にはご家族の意見や要望を聞き入れ見直しを行っている。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録用紙を個別に用意し一日の変化(日常の様子や本人の言葉、食事量、排泄等)を記録して申し送りをしている。また、個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実践している。		身体状況に特変が生じたときは、個別に介護記録2号用紙に記載し毎日の申し送りで職員間の情報共有を徹底している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院の援助や送迎など柔軟に対応している。		本人や家族が安心して暮らせるよう努力して行きたい。

グループホーム だんらん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の商店や文化施設などを利用して、利用者が安心して生活のP場を広げる支援を行っている。		管轄の消防署の協力で地域も巻き込んだ大規模な消防訓練をした。当日の参加者(地域の方)は少なかったが今後も継続して行って行きたい。また、地域の学校の職場体験も積極的に参加している。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要があったときに支援して行きたい。		今後は必要性に応じケアマネジャーや他施設とのネットワーク作りを行って行きたい。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居希望者や退去時の支援などに相互の情報交換を行い協力や連携をとっている。		今後も必要随時活用して行きたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望の医療機関の把握をし、ご本人、家族が希望する医療を受けられるように支援している。		他科受診が必要なときは基本的に家族同伴とし、不可能な時は職員が同行する。その旨は契約時に説明している。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	内科医に週1回、精神科医に3週間に1回の往診を依頼しており、医師同士の情報交換やそれに基づく指示や助言をもらっている。職員には伝達ノートで情報の共有を行なっている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が常に健康管理や状況を把握し変化に応じや支援を行なえるようにしている。		看護職員が不在の時は事前に指示を受けたり、記録を基に確実な連携を行なっている。

グループホーム だんらん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>家族と相談しながら医療機関に情報の提供や話し合いをしている。</p>		<p>入院時には家族や関係者と情報交換しながら、職員が利用者を見舞うように心がけ回復状況を把握し退院支援に役立てている。</p>
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>本人の気持ちを大切にし、家族と話し合いを持ち、急変時にはすぐ対応していただけるように医療関係と密に連携を図れるように対応している。</p>		<p>利用者や家族の意向を汲み取りながら個別に対応している。</p>
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員、ケースワーカーと連携を取っている。安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。</p>		<p>急変したときはすぐに連絡が取れるように緊急連絡網を作成しており、主治医の携帯番号を登録している。</p>
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人が一番良いと思われる方向を家族や関係者と話し合い、実際に見学したり体験してもらったりしている。</p>		<p>過去にグループホームから自宅近隣のグループホームに住み替えた方がいたが、顔見知りの人や職員がいたため、最小限のダメージですんだ。</p>
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>排泄時の誘導などは小さな声でさりげなく声かけ、対応している。カンファレンス等で使用した書類はシュレッターで処理している。</p>		<p>ケア理念で「入居者の方々を人生の先輩として尊ぶ」とし職員の姿勢を統一、慎重な対応を心掛けたい。</p>

グループホーム だんらん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	利用者で過ごす中で利用者の希望や関心、嗜好を見極め本人が選びやすい場面作りをしている。例えば入浴前の準備には利用者のペースに合わせ服をえらんで頂いたり、好みを配慮した上で自己決定がしやすい様支援している。		買い物時は好みの花を選んでもらったり、希望のヘアスタイルを聞きカットしてもらっている。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その日の健康状態等に合わせ状況に配慮しながら対応している。		食事や睡眠時間など利用者のペースに沿って見守りながら一緒に生活している。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出時など本人の好みを優先させ、行き付けの美容室を利用したり訪問の美容カット時には本人の希望を取り入れた髪型にしている。		ゆっくりと本人の買い物ができるように小グループに分けて出かけている。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、下膳など一人一人の能力に応じて行ってもらっている。利用者と職員が同じテーブルで同じ物を一緒に食べている。		調理は厨房で栄養士が作っており、グループホームでは作っていないが、おやつ作り(誕生日のケーキ、団子)などを取り入れている。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	御酒、タバコ等の要望はないが敬老の日やお正月等には適量の御酒を提供している。		誕生日、10時や3時の補水時などには好みの飲み物を提供するように努めている。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中、夜間帯の排泄パターンをつかみさりげなく声かけ誘導する。失禁した場合は周囲に気づかれないよう手早く対応している。		失禁の多い方には排泄チェック表を作り、モニタリングをして失禁しそうな時間帯には声かけ誘導をしている。

グループホーム だんらん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時に拒否があれば後日に変更している。入浴剤などを入れ、一人一人がくつろいで入浴できるようにさりげない見守りをするなど個別の支援をしている。		入浴日、時間は決めているが、拒否がある場合は曜日等を変更したり、清拭や足浴等の声かけをしている。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者に応じて余暇活動や生活リハビリを日中に組み込んでいる。居室に誘導しお茶を飲んでいただきゆっくりと休んでいただく。		室温や加湿の調節(冬季、手足の冷える利用者さんにはユタポンを対応している)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝の清掃時など居室や食堂の椅子、廊下の手すり等拭いてもらったりしている。新聞受けやおちゃの準備おやつのお盛り付けなど役割を持ってもらっている。また、気の合った仲間と互いの部屋を訪室し合い雑談したり出来るよう環境を整えている。		利用者に応じて余暇活動や生活リハビリを日中に組み込みでいる。(花付け、唄、裁縫)など
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在1名もみ自己管理(現金、通帳)をしている。他の入居者は家族と相談し個人の能力に応じた管理を行なっている。自分で管理できない方は小遣い程度預かり、出納帳をつけ家族に確認してもらっている。		買い物時が財布を渡し、支払いなどの見守り支援している。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の体調を見ながら車椅子や施設の車を利用し、希望する店で買い物をしたり地域のお地蔵様にお参りに行ったりしている。		冬季は感染症の流行や体調の変化で外出の機会が少なくなっているが、玄関先やバルコニーに出て近隣の風景を眺め気分転換を行なっている。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お盆や、正月には面会時やホーム便り、電話で案内してご家族に協力をもらっている。家族の中には連れ出したら帰らないと言われそうで困るという意見が聞かれることもあるが、根気強く説得して協力をもらえるよう努めている。		墓参りや地域での買い物や散歩を計画して行っている。日々のお茶の時間等に回想の中で行って見たい所やエピソードを聞き出している。

グループホーム だんらん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があったときや家族から電話があったときは椅子を準備してゆっくり話ができるようにしている。		自分のほうから、電話したり出来るのは限られた人であるため、きめ細かく能力に合わせた援助をしていきたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問できるようにホーム便りを利用して案内している。訪問時は食堂や居室に案内してお茶を出しゆっくり過ごしていただくよう支援している。		時間の制限なく、随時訪問を受け付けているので引き続き継続していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で身体拘束について職員全員が理解し身体拘束のないケアを目指している。		現在、認知症と身体状況により、就床時(職員が1名だった)り、他の居室に訪問する時など)転倒のリスクが高く、それを防ぐため1名の利用者に限りサイドループを設置する時間帯がある。今後も折に触れ身体拘束が及ぼす弊害について、全員で学んでいき身体拘束ゼロを目指していきたい。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、玄関には感知チャイムを設置してさり気なく		鍵による弊害を全職員が理解しており、チャイムに気を配りながら離所による事故に結びつかない見守りを行っている。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は記録などの事務作業やその他の業務を行いながら、さり気なく見守りをしている。		夜間は定期的や必要に応じて巡回をしたり、排泄時の個別援助を行い昼夜の安全を行っている。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は事務所の戸棚に入れ施錠して管理している。包丁は使用後食品庫に収納して施錠している。		洗剤類は棚の上に置き目隠ししたり、や食品庫に保管し施錠している。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	窒息時を想定してハイムリック法を学習・実技したり転倒につながる水や失禁、清掃時は掃除機のコードに気を配り、日常の些細なことから気をつけている。防火対策としては電気設備、消火器具などに不備はないかを点検し自主点検表を作成して記入している。		事故報告やヒヤリハットで報告し、記録に残している。情報や対応策はスタッフ間で共有し、状況によっては家族と連絡を取り、専門医の受診を相談したり主治医のい指示を受け、対応策を相談している。

グループホーム だんらん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急処置マニュアルや緊急連絡網を整備しており対応できるようにしている、勉強会や講習などで学習している。		消防機関に協力してもらい究明処置講習(心配蘇生法AEDの使用法)を実技体験している。新規就職者や配置転換で入職した職員は未講習なので今後も回数を重ねて行きたい
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中や夜勤帯を想定した消防総合訓練(初期消火・通報誘導訓練)を管轄の消防機関に協力してもらい実施している。また実際に粉末消火器や水消火器を使用した初期消火訓練を実施している。		今後は毛布・シーツ等を利用した搬出法の訓練を重ねて行きたい。地域運営推進会議の時に、町職員や地区の自治会長の方々に以下の事を相談している。天災時の避難場所(地震や風水害)については町の会館や最寄の中学校。火災時の地域の協力体制は施設の火災時連絡網に自治会長に入ってもらうや、地区の放送設備を通じて連絡
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日常生活や外出時の様子などから、個別に本人が抱えている心身のリスクをわかりやすく説明し家族の協力をもらっている。		本人が抱えているリスクは日々変化するので、今後も機会あるごとに家族と連絡を取り合って行きたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況は毎日の申し送りや伝達ノートなどの記録で全員が把握しており、少しでも食欲や顔色など体調の変化が見られたときはバイタルチェックを行い変化に応じた対応をしている。又、変化は記録に残し継続性のあるケアへつなげている。		状況により、電話やFAXで報告して指示を受けたり、臨時に往診に来ていただいたりしてくれている。指示を受けた際は引継ぎの時や伝達ノートを介して職員全員で情報を共有して対応にあたっている。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の治療目的、用法用量は医師の情報や薬局から添付されている処方箋、薬一覧表などを通じて把握してそれに応じた身体状況の変化をチェックしている。変薬や追加処方があった時は、伝達ノートを使い随時全スタッフに情報を伝達し観察やケアに役立てている。		状況の変化は記録等と共に家族や主治医に連絡報告している。また、家族へは現在服用中の処方箋のコピーを送付して身体状況や病名を共有できるようにしている。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体を動かす体操を取り入れたり、歩行数を増やす工夫(移動する導線をさり気なく長くする)したり、水分が不足しないように水分摂取に配慮したりしている。		個々の排便パターンをつかみ、はっきりしないときは本人の協力を得て、宿便の状態を把握している。

グループホーム だんらん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、毎食後の歯磨きは習慣となっており、清潔保持能力に応じ見守り、介助を行っている。就寝前には義歯を預かり洗浄している。		週1回は歯磨きセット(歯ブラシ、コップ、カゴ)を消毒している。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量を記録して、個々の食事の摂取やおやつ、水分摂取量を把握している。本人の嗜好を考慮し出来る限り沿うようにしている。牛乳が飲めないかたには他の飲み物に変えたり、体調が悪い方には粥食やあっさりした食べ物に工夫している。		食事量や水分摂取量の把握の必要性をスタッフが充分把握しており室温、着衣、発汗、熱発など常時気を配っている。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを整備し就職時のオリエンテーションや必要随時伝達している。		感染症時期に関わらず共用タオルは設置せず、ペーパータオルや個々にハンカチやタオルを携帯してもらっている。面会時には手洗いうがいの協力をお願いして(持ち込まない・持ち出さない)を基本にしている。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理場で料理したものが運ばれてくるため、使用する食器や調理器具などの消毒は手順書を作り毎日チェックを行っている。また、記録に漏れのないようチェック表をつくり担当者を決めている。		感染症の時期だけでなく、年間を通じて管理して行く必要がある。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	馴染みやすいように手作りの看板(表札)を作り設置し馴染みの花を植えたり、家庭的な雰囲気工夫している。		学生の通学路になっているためか、朝小学生がトイレを借りに来て用を足した後、入居者さんに(行ってきます)と挨拶をして出て行くこともある。また隣のレストランのトイレが高齢者にとって使いにくいいためかホームのトイレを借りに来られることもある。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染んだ持ち物や、季節感のある共用空間の工夫に努めている。茶碗を洗う音やおやつ作り、自宅で出来た柿や草花を食卓に飾ったり五感や季節感を取り入れる工夫をしている。		利用者の方々が季節の花や見慣れた野花を生けて廊下・玄関・食堂・玄関・居室等に置いている。夏は居室やトイレの窓によしずや簾を設置して強い日差しを和らげている。

グループホーム だんらん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1・2人用、複数座れるソファやテーブルを設置し、新聞や折込チラシをみたり、編み物や裁縫など自由に過ごせている。		いつでも利用者さんが自由に使えるよう、食堂のカウンターにはキーパー、ポット、急須、湯のみなどを置いており、お茶を飲みながらゆっくり過ごせるようにしている。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時やご家族の面会時、ホーム便りなどで家族に馴染みの物品の持ち込みの依頼をお願いしている。		自宅で使っていた筆筒や人形、時計、花瓶など好みのもので使い慣れた家具があり、安心して過ごせるようにしている。充分でない方は殺風景にならないよう家族にも必要性を説明し協力していただくよう努めている。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレの清掃は毎日午前午後と行っており、清潔を保っている。またチャック表を記入して掃除漏れのないようにしている。排泄後は換気や消臭スプレーを使用して悪臭がこもらないようにしている。		利用者の発汗の様子や冷房の冷えなどに注意して室温の調節をしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりは各所に設置している。入浴時のチェア台、浴槽に滑り止めマットを入れたり安全のために設置している。食事中など身体が傾き座位保持困難な利用者のために地域の方が椅子に手すりを作っていたいただき安心して食事が出来るようにしている。		茶碗を洗う音やカキ氷作り、など五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にとって混乱しているところを把握しわかりやすい言葉や文字で表す工夫をしている。		トイレの電気、水洗のスイッチの場所に目印をつけたりトイレの場所に大きな文字で「便所」と書いて利用者の目線の高さに貼り付けている。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内に利用者の自宅の庭から植え替えた花や季節の花を植え天気の良い日には散策を楽しんでいる。日当たりの良い場所にバルコニーを作り外気浴を楽しんだり体操をしている。		バルコニーを利用して洗濯物や布団干し、清掃後の雑巾干しなど利用者と一緒にしている。

グループホーム だんらん

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム だんらん

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

出来る限り外の研修会を促したり ケアの質の向上に努めている。

利用者の退居率が少なく、安定した生活が過ごせていると思う。